



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



左：6月6日の金星の太陽面通過（右上の黒い丸いシルエットが金星、他は黒点） 右上：5月21日の部分日食 右下：天文台で部分日食を観察する来館者（撮影：吉澤康暢）

福井の自然史情報

部分日食と金星の太陽面通過

日本全国1億人が見上げた金環日食と今世紀最後の金星の太陽面通過。

晴天に恵まれ、宇宙のダイナミックな構造や動きによる
絶妙な瞬間に出会うことができました。

博物館屋上の天文台には早朝から大勢の市民が訪れ、
世紀の天体ショーを楽しみました。



中の紙面に観望会についての記事があります。

第74回特別展

福井市自然史博物館還暦展

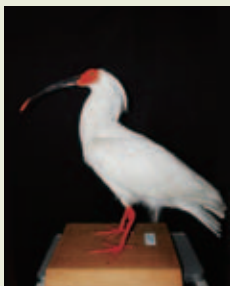
モノ 標本が語る郷土ふくいの自然の物語

【開催期間】2012年7月20日金～9月23日日

2012年7月20日で福井市自然史博物館は開館60周年（還暦）を迎えます。この間に集められてきた資料の中から、福井県内最後の記録となったトキの剥製をはじめ、イヌワシ、ニホンカモシカなど迫力満点の大型剥製、国内希少野生動植物種のアベサンショウウオ、ヤシャゲンゴロウの標本、昭和8年（1933年）の福井行幸の際に昭和天皇がご覧になった植物標本、色とりどりの昆虫標本など貴重なコレクションを一堂に展示します。動物、植物、昆虫、化石、岩石・鉱物まで、ふるさと福井の自然がギュッと詰まった展示です。

福井県産唯一のトキの標本

現在、日本では野生状態で絶滅してしまい、人工飼育、野生復帰の試みがされているトキですが、18世紀、19世紀前半までは決して珍しい鳥ではなく、ありふれた鳥であったと考えられています。福井県でも、江戸時代に描かれた絵が残っており、当時は県内にも生息したことが推定できますが、1957年に福井市久喜津町の狐橋で発見された、銃弾を受けた1羽の個体が県内唯一のトキの記録となっており、その剥製が当館に所蔵されています。福井県にトキが生息していたことを物語る貴重な標本を展示します。



トキの剥製

国内希少野生動植物種 アベサンショウウオ

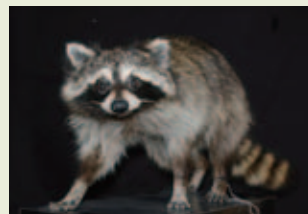
アベサンショウウオは、兵庫県（但馬地方）、京都府（丹後地方）と福井県からのみ分布が確認されており、種の保存法^{※1}に基づく国内希少野生動植物種^{※2}に指定されている非常に貴重な両生類です。1998年、福井県両生爬虫類研究会により福井県北部の丘陵地で分布が確認され、その後の調査で越前市西部地域や嶺南東部地域からも分布が確認されています。生息地が非常に限られており、環境破壊の影響を受けやすい場所を生息地としていることから、当館協力員の長谷川 巖先生が中心となり、県内生息地における生息状況調査・生息地環境整備活動が進められています。長谷川先生から寄贈された貴重なアベサンショウウオの標本を展示します。



アベサンショウウオの生態写真

特定外来生物 アライグマの剥製

福井市自然史博物館が開館してから60年の間に、生息環境が悪化して絶滅の危険にさらされるようになった一方で、外から入ってきて県内で分布を拡大している生物もいます。今回の展示では、この60年の間に県内で分布を拡大している外来種にもスポットを当て、郷土福井の自然の移り変わりを紹介します。特定外来生物^{※3}になっているアライグマの剥製や、ウシガエル^{※4}の液浸標本、オオキンケイギク^{※5}の標本、県内で分布を拡大しているラミーカミキリ^{※6}、ナガサキアゲハ^{※7}なども取り上げます。

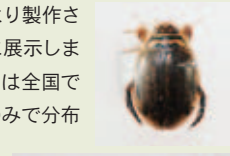


アライグマの剥製

色とりどりの昆虫標本

当館には登録されているだけで約22,000件の昆虫標本が収蔵されています。その中から、開館当初の標本や、郷土福井を彩る美しいチョウの標本、福井で見られるちょっと変わった形態をした種の標本などを展示します。また、今回の展示では足羽山で確認された300種近くのハチ類の標本も展示。色・形の面からも数の面からも昆虫の多様な世界を実感していただけるはずです。

さらに、今回は国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの標本を、南越前町ケーブルテレビにより製作された生態動画とともに展示します。ヤシャゲンゴロウは全国でも福井県の夜叉ヶ池のみで分布が確認されているゲンゴロウであり、福井を代表する昆虫といえることができます。限られた地域で命をつなぐ小さな昆虫にも思いを馳せてみてください。

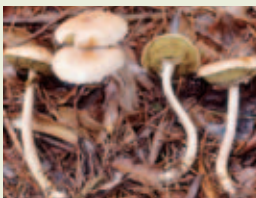


上：ヤシャゲンゴロウの標本
下：ヒサマツミドリシジミの標本

福井県が北限のキノコ

福井県では現在、約700種類のキノコが確認されています。その中から、自然環境の変化と共に最近見られなくなったキノコや発生数が少なくほとんど見ることのできないキノコなど、珍しいキノコの他、身近でよく見られる一般的なキノコなど様々なキノコの乾燥標本を約30種類展示します。

珍しいキノコの1つであるアキノアシナガイグチは、夏～秋、主にシイとアカマツが混じった林内の地上に発生します。かさとお柄の表面は、多量の粘液に覆われており、柄は長く、膜質で白色のつばを備えているという特徴があります。本県では敦賀半島でのみ採集されており、現在、福井県が北限とみられているキノコです。このキノコの本県初採集の乾燥標本を展示します。



アキノアシナガイグチの生態写真

天覧標本

当館の植物の収蔵標本の中に、「天覧標本」があります。これは、昭和8年の秋に陸軍特別大演習の統監の為に昭和天皇が福井県に行幸されるのに先立ち、県内の小中学校の先生方が総動員で植物採集を行い、約8万点の標本が作製され、その中から1,768点の標本が選ばれ、昭和天皇がご覧になったものです。

天覧標本のほとんどは、当時の福井師範学校で保管されていましたが、戦災と震災で消失してしまいました。ところが、当館初代館長の堀芳孝氏が偶然自宅に保管していた天覧標本12点だけは幸にも無事だったのです。それらが当館に収蔵されており、その一部を展示します。奇跡に残った「天覧賜」の印が押された貴重な標本を、ぜひご覧ください。



天覧標本（オオシラヒゲソウ）

【※1】種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」。平成5年4月施行。

【※2】国内希少野生動植物種：種の保存法に基づき指定される絶滅の危機にある国内の野生生物。

【※3】特定外来生物：日本在来の生物を捕食又は競合したりして、生態系を損ねたり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与えたりする、あるいはそうするおそれのある外来生物の中から外来生物法によって指定されたもの。

晴天に恵まれた世紀の天体ショー

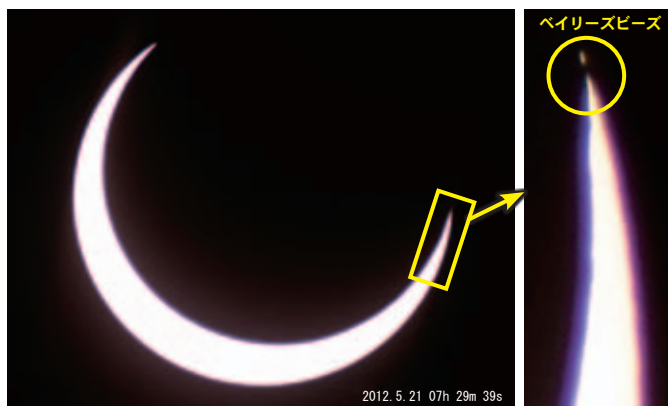
福井市自然史博物館天文台での記録

9割以上欠けた深い部分日食 — ベイリーズビーズの撮影に成功 —

5月21日は日本列島が金環日食にわたった日、当館でも早朝より観測会を開催しました。快晴に恵まれ、月曜日でしたが約900人もの市民の方々が屋上の天文台に訪れました。当館では、安全な日食メガネを準備し、個人で観察していただくとともに、天文台の20cm屈折望遠鏡で太陽像を直径約30cmの大きさに拡大して投影し、刻一刻変化する太陽の形を観察していただきました。そして、太陽を蝕む丸い大きなシルエットが、月の実際の輪郭であるということを実感していただきました。また、太陽面には大きな黒点群が複数出現しており、来館者は初めて見る黒点の姿にも感動していました。

午前7時32分頃、欠ける割合が最大となりましたが、この前後にはあたりが薄暗くなり気温も下がりはじめ、ふだんとは違う異様な雰囲気になりました。また、博物館前の森の木漏れ日が全て細い三日月状になりました。

さらに、太陽像の細い三日月状の先端部分でベイリーズビーズという現象がわずかに確認でき、写真撮影にも成功しました。ベイリーズビーズは、月のふちにある深い谷間から太陽の光がもれて、いくつもの光が点々とビーズのようにつながって見えるところからつけられた名前です。(写真・文 吉澤)



左：ベイリーズビーズが見られた部分日食全体 右：ベイリーズビーズの拡大



天体望遠鏡で投影した太陽像



木漏れ日が日食の太陽の形になった。

今世紀最後の金星の太陽面通過 —金星の内合の全過程を記録—

6月6日午前7時17分～午後1時53分まで、8年ぶりの金星の太陽面通過（金星の日面経過）の観測会を開催しました。前回は天気が悪く、福井では見られませんでした。今回は晴天に恵まれ、平日であるにもかかわらず、250人以上の熱心な方々が来館し観測しました。部分日食の時と同じように安全な日食メガネを配布すると共に、天文台内にある20cm屈折望遠鏡に特殊なフィルターをつけ、鮮明な金星像を観察していただきました。日食メガネによる肉眼観察では、小さな黒い点がどうにか確認できましたが、やはり双眼鏡が小さな望遠鏡が必要でした。

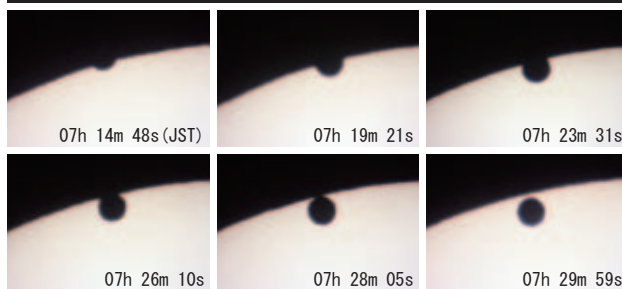
望遠鏡を通して見る金星は、明るい太陽面上にあって、黒点よりもはるかに黒く大きな球体でした。その輪郭の鮮やかさは格別で、スタッフ一同はもちろん、来館者の方々も深く脳裏に焼き付いたものと思われます。

金星の太陽面通過がこの次見られるのは105年後です。今回晴天に恵まれて観測できたことは幸運でした。(写真・文 吉澤)

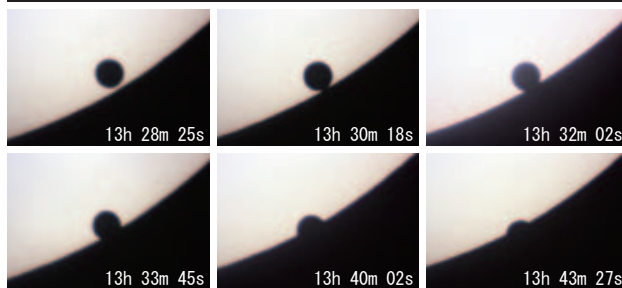


金星の太陽面通過を観察する来館者

金星が太陽面の縁にかかり始めてから内側に入りこむまで



金星が太陽面の縁に再びかかり始めてから外側に出るまで



20cm屈折望遠鏡（焦点距離2400mm）に9mmの接眼レンズをつけてEOS7Dにて拡大撮影。バーダープラネタリウム社製フィルター使用。

「トノサマガエル」と「ダルマガエル」



みなさんは近くの田んぼでこのようなカエルを見たことがありますか？
福井県には2種類のよく似たカエルが生息しています。「トノサマガエル」と「ダルマガエル」です。トノサマガエルは福井県全域に生息していますが、ダルマガエルは福井県では嶺南にしか見られません。ともに南から日本に入ってきたカエルですが、トノサマガエルはその高い運動能力で嶺北、嶺南を分ける稜線をこえて分布していったのに対し、運動能力のそれほど高くないダルマガエルは嶺南にとどまることになったと考えられています。そこでこの写真のカエルです。実はこのカエル、図鑑で見分けるとトノサマガエルなのか、ダルマガエルなのか分けることができません。トノサマガエル（高田型）と呼ばれるこのカエルは、体つきはトノサマガエル、体の模様はダルマガエルという、ちょっと変わった特徴を持ったカエルで、福井・石川・富山・新潟・長野に出現します。両方のカエルの特徴をもつこのカエル。このカエルのルーツを追うことが出来れば、トノサマガエル、ダルマガエルの2種が日本に分布していった、その軌跡を見ることが出来るかもしれません。（梨木）



トノサマガエル（高田型）



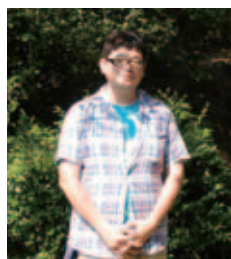
新 任 職 員 の 紹 介



副館長
さかい やすし
坂 靖志

4月から足羽山で働くことになりました

た。足羽山へは結構足しげく来ていたつもりでしたが、毎日通ってみると多くの市民の方々が様々な楽しみ方をしているんだと思うようになってきました。足羽山を知ることからはじめたいと思っています。



学芸員
にしき ゆきまさ
梨木之正

4月から非常勤ではありますが動物を担当させていただきますこととなりました。専門はハ虫類、そして骨格標本の作製などです。日々多くの人に利用されている足羽山ですが、まだまだ知られていない動物、また昭和を境に記録が更新されていない動物もいます。この1年でそれらをひとつひとつ見つけ、みなさんに紹介できればと考えています。よろしくお願いいたします。



副主幹
つじばたひろかず
辻端弘和

4月の人事異動で自然史博物館にお世話

になることになりました。事務職なので自然史に関する専門知識は全くありませんが、博物館の様々な行事をできる限り市民にPRできるようがんばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

《あとがき》

当館では今号でも紹介した「金環日食（福井では部分日食）」や「金星の太陽面通過」のほかにも、天体の観望会を開催しております。詳細は当館ホームページをご参照ください。

また、7月20日から9月23日まで第74回特別展「福井市自然史博物館還暦展 標本が語る郷土ふくいの自然の物語」を開催いたします。普段は展示できない大型の標本や希少な標本を展示いたします。皆様のご来館をお待ちしております。（辻端）

《交通案内》

【電車】

●福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バス】

●京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（藤島神社登る）各徒歩10分
●コミュニティバスすまいる：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩10分

【徒歩】JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）
休 館 日 ●月曜日（祝休日は開館）、国民の祝休日の翌日、年末年始

入 館 料 ●高校生以上 100円（20名以上の団体は半額）
中学生以下、70歳以上、障害者および付添の方は無料

